

# 保護者の学校に対する意識調査

——教育目標検討の手がかりとして——

高橋 三郎\*

学校の教育目標を考えると、第1は「どんな生徒にそだてるか」であり、第2は、それを「どのようにしてするか」ということが考えられる。そのためには、地域や生徒の実態についてよく知り、それにたいする教育的見解が明らかにされなければならない。この調査は、半ば恒常的になっている教育目標を検討する手がかりとして、保護者の学校にたいする意識を調査し、考察を加えたものである。

## I 主題設定の理由

本校の学区は、新潟平野のほぼ中央にあって、信濃川と刈谷田川にはさまれている典型的な平場農村地帯である。以前、学校の位置問題をめぐって、数年間にわたって混迷をつづけてきた。そして、統合校舎の完成と同時に設定されたのが、現在の教育目標「知性」「健康」「協力」である。それからすでに10年、社会はおおきく変動してきている。

この4月から、新教育課程も実施される。決して、教育目標を全面的にかえるというわけではないが、そろそろ、このへんで検討してみなければならない時期にきている。そこで、その第1段階として、保護者が子どもや学校などについて、どのような願いや期待をもっているのか、ほんとうの声をきいて、その手がかりをつかんでみたいと考え、この調査研究を計画した。

## II 調査の方法

調査方法は、7項目にわたるアンケート用紙を、生徒在学の全家庭に配布し、記入してもらった。調査内容は、調査結果の考察の項に重複するので省略する。形式は、選択肢を用意したもの（単数選択、複数選択など）、記述するものなどである。調査の対象（記入者）は、成人者（男女不問）に限定した。

地域別、学年、学級別世帯数と回収数

年組学区	中野	中条	信条	三沼	世帯数	回収数	回収率
1の1	12	10	12	3	37	37	100%
1の2	11	10	13	2	36	29	80.5
1の3	12	9	12	4	37	34	91.8
2の1	15	12	10	0	37	32	89.1
2の2	17	8	13	3	41	33	80.4
2の3	10	13	11	5	39	37	94.8
3の1	15	14	13	1	43	36	83.7
3の2	12	15	15	0	42	42	100
3の3	11	10	17	5	43	29	67.5
合計	115	101	106	23	355	309	88.5

調査は昭和46年11月はじめに行なった。調査用紙配布は355世帯（全世帯）回収数は309で、回収率は88.5%であった。学級別、部落別については、左表参照

注 回答者の約85%は30代、40代の父母であった。

\* 南蒲原郡中之島村立中之島北中学校教諭

### Ⅲ 調査の結果と考察

#### 1 地域の未来像について

「わたしたちの住んでいる地域は、典型的な純農村地帯です。しかし、今後、上越新幹線や関越自動車道路など交通網が整備され、将来はますます変容していくことが予想されます。この地域をさらに発展させていくためにはどんなことに力をいれたらいいとお考えになりますか。とくに重要だと思われるもの2つに○印をつけてください。」という質問にたいしての回答結果はつぎのようであった。

(表1) 地域の未来像

(1)	長岡市の郊外として、米ややさいやくだもの主産地として発展させる。	135人
(2)	長岡市などの郊外住宅地として発展させる。	42人
(3)	いろいろな会社や工場を誘致して工業地域として発展させる。	127人
(4)	兼業農家として、都市と農村とを共存共栄させる。	198人
(5)	その他	13人

順序不同の選択肢5項のうち、2つだけつける複数回答である。しかし、ひとつしかつかなかったもの、3つつけたもの、無回答、2つつけたものでも、あきらかに生徒自身がつけたと思われるものなどは除外して集計した。

(4) 兼業農家として生きる、を回答した保護者が多いのは、政府の農業政策にみられるように、これからの農業のありかたを暗示しているように思われる。じっさい、このごろの生徒の進路をみても、数年前の、長男、2男、3男などに関係なく、農業高校へ進学する割合が多かったのにくらべて大きく変わってきている。

同じ職業系の高校でも、商業、工業などへ進む率が増大してきている。とすれば、とうぜん、教育目標もそうした傾向を考慮しなければならないと思う。

つぎに、(1) 長岡市の郊外の農産物の供給地としての発展も比較的多く回答があった。予想では、この選択は長岡市に近い部落(中野)に集中し、全体としては少ないと思っていたが、結果は反対で、全部落に共通していた。(3) 工業地域としての発展は、余剰労働力の転用を考えたものと思う。(2) 郊外住宅地域としての発展は、農村特有の親類マキ(本家を中心とした同族集団)とよそ者にたいして本能的な疎外感情、長いあいだの因襲や地縁、血縁などの人間関係が潜在的にあるものと思われる。(5) その他の記述は、将来、大型機械化農業への志向を書いたものが大半であった。

なお、選択肢の複数回答(2つのくみあわせ)については、(1)と(3)、(1)と(4)、(3)と(4)という選択が多かった。地域の未来像は、(2)、(3)、(4)、(5)を総括的にみるとすでに兼業の方向にあることがわかる。将来は、子どもを高校に進学させて、サラリーマンとて動かせ、結婚したら妻に農業をさせるという形に大半がおちつくのではないかとと思われる。こうした結果をもとに学校としても地域社会の将来、また、そこに生きる人間像について十分検討する必要がある。

#### 2 毎日の生活のなかでの関心について

「毎日の生活のなかで、どんなことに一番、関心をもっていますか。ひとつだけ○印をつけてくださ

い。」の質問についての結果は、表2のようであった。

（表2） 毎日の生活のなかでの関心

(1)	しごとに専念すること	26人
(2)	自分自身を向上させること	9人
(3)	趣味や娯楽をたのしむこと	11人
(4)	子どもや自分の将来にたいし、夢や希望をもつこと	41人
(5)	家庭が円満で、家族が健康であること	262人
(6)	友人や近所のひとから信頼され、理解しあったりすること	3人
(7)	その他（ ）	3人

単数選択である。結果は(5)家庭が円満で、家族が健康であること、の項目にほとんどの選択肢が集中していた。家庭の最高の責任者として、やはり、明るい健全な家庭づくりをめざしていることがわかる。原点は家庭であり、これが平凡な小市民的な集約された感情であろう。そして、また、これが当事者にとっては、いちばんしあわせなことでもであろう。それぞれのおかれている立場や、主観や見解の相違によってもちがうだろうが、生きがいとか、幸福とかいっても、結局は、こうしたものであろうし、こうしたところへおちつくのではないだろうか。以下、(4)子どもの将来や自分の将来にたいし、夢や希望をもつこと、(6)友人や近所のひとから信頼され、理解しあったりすることの順であった。

(4)が2番めに多いのは、学区内の90%の家庭が農業を専業としているが、政府の農政にたいする諦観を膚で直接感じていることの反映でもであろう。これは、4、子どもに受けさせたい教育の程度のところでもくわしく述べるが、進学率の向上もさることながら、進学する高校も変容してきている。こういった点もじゅうぶん考慮にいれなければなるまい。(1)しごとに専念することは、生業についての自覚と誇りであろう。生徒にも、勤労の尊さをからだで教えているのだと思われる。(3)趣味や娯楽をたのしむ、は、農繁期と農閑期の労働量がアンバランスで、何か生活にうるおいと幅をもたせたいからだと思う。調査のなかに、それらの名まえを記入してもらうようにすればよかったと思う。

(6)友人や、近所のひとから信頼され、理解しあったりすること、は、農村の強い共同体意識のなかでは、所属感・連帯感が地縁関係ともいろいろななかたちでかかわりあっているのだと考えられる。

### 3 生徒の将来にたいする親の願い

「将来、子どもさんにどのような人間になってほしいとお考えですか。つぎのなかから3つ選んで○をつけてください。」にたいする結果は、表3のとおりであった。

（表3） 生徒の将来にたいする親の願い

番号	項 目	人数	番号	項 目	人数
(1)	からだの健全なひとになってほしい。	180人	(8)	何でも親にうちあけるひとになってほしい。	36人
(2)	思慮分別のあるひとになってほしい。	37人	(9)	思いやりのある暖かいひとになってほしい。	99人
(3)	勤労を尊ぶひとになってほしい。	44人	(10)	責任をはたし、他人に迷惑をかけないひとになってほしい。	138人
(4)	明朗なひとになってほしい。	55人	(11)	進んで社会のためになるひとになってほしい。	65人
(5)	礼儀の正しいひとになってほしい。	35人	(12)	日本人として、視野の広いひとになってほしい。	9人
(6)	よく勉強するひとになってほしい。	19人	(13)	その他（ ）	8人
(7)	うるおいのあるひとになってほしい。	12人			

複数回答である。こんな人間になってほしい、という親の願いや期待がそのままではないが、全般的にみた感じでは、親のはたされなかった願望がある程度、こめられているのではないかと思う。ひとつひとつの項目について分析してみると、(1)からだの健康なひと、が圧倒的に多い。

(1)からだの健全なひと、というのは、心もおそらく含まれるものと判断する。現在の教育目標の「健康」にも、じゅうぶんにかわりあいのあることである。もし、検討するとしたら、このへんのことをもうすこし、吟味すべきだと思う。つぎに多かった(10)責任をはたし、他人に迷惑をかけないひと、というのは何事も最後まで責任をもってやりとげる。そして、その過程のなかでもひとには迷惑をかけない、ということの意味するのだと思う。(9)思いやりのある暖かいひと、というのは、ひとの立場になって考え、人情味のあるひと、ということを期待しているのだと思う。農村部特有の所属感、連帯感も以前ほど強くないことが想像される。

やはり、困ったときは、お互いに助けあい、励ましあい、慰めあう、といったことは必要なのではないかと思う。(8)何でも親にうちあけるひと、というのが意外に少なかった。これは、中学生という年ごろと第2反抗期という時期に関係がある。表3のこれらの保護者の願いを、そのまますなおにとりいれるのは危険であろうが、複雑な要素がからみあっているので、じゅうぶんに吟味して、教育目標を設定するさいの資料にしなければならないと思う。

#### 4 子どもにうけさせたい教育の程度

「Aあなたに、男の子どもがあつたら、どの程度の教育をうけさせたいと思いますか。ひとつだけ○で囲んでください。その他のところは、訓練校、各種学校です。学校名も書いてください。

- (1)義務教育まで (2)高校まで(全日制、定時制、通信制も含む) (3)短大、高専まで  
(4)大学まで (5)大学院まで (6)その他( )

Bあなたに、女の子どもがあつたら、どの程度の教育をうけさせたいと思いますか。ひとつだけ○で囲んでください。その他のところは、訓練校、各種学校です。学校名も書いてください。

- (1)義務教育まで (2)高校まで(全日制、定時制、通信制も含む) (3)短大、高専まで  
(4)大学まで (5)大学院まで (6)その他( )」の結果は下表4のとおりであった。

(表4) 子どもにうけさせたい教育の程度

A 男の生徒			B 女の生徒		
番号	学 校 名	人数	番号	学 校 名	人数
(1)	義務教育まで	13 人	(1)	義務教育まで	19 人
(2)	高校まで	136 人	(2)	高校まで	198 人
(3)	短大、高専まで	31 人	(3)	短大、高専まで	11 人
(4)	大学まで	27 人	(4)	大学まで	16 人
(5)	大学院まで	3 人	(5)	大学院まで	0 人
(6)	その他(各種学校)	14 人	(6)	その他(各種学校)	15 人

男女ともに、(2)高校まで、というのが圧倒的に多い。これは、これからの社会はせめて高校くらいはでていなければという、なかば義務教育化している高校と学歴社会への最低のパスポートという意識からであろう。親の意識がそうであれば、われわれも進路については、もっと慎重に考えてやらなければならないと思う。たんに、高校にはいりさえすればそれでよい。高校さえでていればなんとかなるだろう、というのではなく、適性・性格・家庭事情など多角的にみた指導が必要であろう。

ところで、この調査では、高校の種類をあげておかなかった。それは、どの程度の教育をうけさせた

いか、ということであったからである。もし、その種類を具体的にあげておいたら、男女とも、農業高校よりも、普通科、商業科、工業科、家庭科など多様なコースをあげたと思う。短大、高専、大学も男女とも若干あった。これらは、兄や姉の大学進学に刺激されてのことであろう。その他の項は、男女とも、各種職業訓練校、会社内に併設している企業内高校、洋裁、タイピストなどの各種学校、看護婦(夫)養成所などであった。

## 5 生徒の現状について

「生徒の現状についてどう思いますか。自分の子どもや、よその子どもをみて感じていることを、各項目のあてはまると思われるところにどれかひとつ○で囲んでください。」の結果は表5のとおりであった。

(表5) 生徒の現状

番号	項 目	よいほう だと思う	ふつうだ と思う	まだ足りない と思う
(1)	毎日の生活を規則正しく過ごす態度	18人	180人	144人
(2)	自分で考え、決心し、実行しようとする態度	11人	153人	154人
(3)	仕事を誠意をもって実行しようとする態度	9人	216人	117人
(4)	物事に従事し、これを持続しようとする態度	7人	163人	189人
(5)	反省したり、他人の意見をすなおに聞こうとする態度	36人	198人	159人
(6)	理想にむかって、意欲的にとりくみ努力しようとする態度	45人	171人	144人
(7)	正義を愛し、つねに公正にふるまおうとする態度	35人	188人	99人
(8)	他人から信頼され、他人を指導しようとする態度	27人	198人	153人
(9)	他人と協力して物事を行なおうとする態度	63人	243人	62人
(10)	他人の気持ちや立場を尊重し、親切にしようとする態度	54人	263人	55人
(11)	公共のためにつくそうとする態度	6人	234人	162人
(12)	進んで物事を行なおうとする態度	5人	216人	182人
(13)	感情や気分左右されない態度	5人	225人	100人
(14)	その他( )	0人	0人	0人

用意した項目は、指導要録の11項目、2傾向をわかりやすいことばで表現したものである。

結果は、各項目とも、ふつうだと思うところが比較的多い。まだ足りないと思う、の項目では、(4)持久力、(12)積極性、(11)公共心、(2)自主性などがある。(1)の基本的生活習慣は家庭でしつけることであろう。これらを総合してみると、積極性、向上心、自主性などの面がふじゅうぶんとみられていることがわかる。また、慣習や伝統に左右されるせいか、合理性、創造性などの面にもかけていることが考えられる。さらに、考えなければならないものとして、実行力、公共心、などもある。これらをもとに職員で十分検討しなければならないと思う。

## 6 中学校教育について

「中学校教育の主として、どんな面に力をいれてもらいたいと思いますか。2つだけ○をつけてください。」という質問の結果は、表6のとおりであった。



(表6) 中学校教育について力を入れてほしい点

番号	内 容	人 数	番号	内 容	人 数
(1)	主として知的な教科面	201 人	(4)	道徳，特別教育活動の面	306 人
(2)	主として身体的な教科面	100 人	(5)	その他の面( )	34 人
(3)	主として情操的な教科面	108 人			

(4)道徳，特別教育活動の面に，意外なほど多く集中したのは，しつけ礼儀など，生活指導面をもっときびしくしてほしいということであろう。今後，こういった面もじゅうぶん考えていかなければならぬ。

以下，(1)知的教科 (3)情操教科 (2)身体的な教科の順であった。(5)その他の項のところは，ミシン，技術といった実社会へですぐに役だつ職業教育があげられたが，総体的には少なかった。

## 7 学校への要望

「あなたは，学校に対して，日ごろどんなご意見やご要望をお持ちですか。いくつでも結構ですから具体的に書いてください」の質問に対す結果は表7のようであった。

学校の施設設備など教育条件の整備，生徒管理，教科指導，教師への要望などさまざまである。

(表7) 学校への要望

(1) 生徒のよい相談相手になってほしい。	(9) 学校参観日を月1回はほしい。
(2) スクールバスを全学区に配車してほしい。	(10) 帰宅時刻がわそい 午後4時ごろまで帰してほしい。
(3) 学校給食をぜひ実現してほしい。	(11) しつけをもっときびしくしてほしい。
(4) テストの結果はすぐに連絡してほしい。	(12) 先生は生徒の範となってほしい。
(5) 土日雨の日はクラブ練習を中止してほしい。	(13) 先生は，信頼されるひとになってほしい。
(6) 生徒の意見もとりたいしてほしい。	(14) 個人指導を徹底的にしてほしい。
(7) 先生方と話しあいの時間を多くしてほしい。	(15) ストープの使用時期を先生方と同じにしてほしい。
(8) 教育屋でなく，教育者になってほしい。	(16) ことばづかいをもっといねいにしてほしい。

※ 必要なものだけである。重複したものは一つにし，似たものも一つにした。順序不同である。

このなかで，特にわれわれ教師として考えなければならないことは，教師批判ともとれる要望である。

教育は信頼感で結ばれた人間関係が基盤である。保護者は教師の一面だけみでの批判であるかもしれない。また，感情的なうけとり方もあろう。しかし，このような要望のひとつひとつを教師のあり方として，真剣にとりあげ話し合い，自戒の一助として，教師と生徒・保護者との信頼感をますます高めるよう努力したいものである。

## IV むすび

調査にあらわれた結果を総括的にのべてきたが，これにより，保護者の学校に対する意識はある程度つかむことができたと思う。しかし，これをそのまま地域保護者の願いとして，学校教育目標に結びつけることは早計である。こうした地域的観点としての資料と同時に，国家的観点(憲法・教育基本法・学校教育法・中教審答申など)からの検討とあわせて，これから志向していく人間像としての学校教育目標を，校長を中心として，学校全体のなかで討議し，共通理解をはかりながら，設定していかなければならない。

ルソーのいった「新しい人間」をつくるためにも，新しい手だてが当然必要であると思う。

おわりに調査にいろいろな形で協力くださった職員及び保護者に感謝いたします。